



真名子小だより

3月号 えがお

平成28年
3月14日
発行者 五味 寿明



卒業式を前に ~6年生を送る会~

3月2日(水)

3月18日は卒業式です。6年生が真名子小に通う日は残りわずかとなりました。

3月に入り、真名子小では、下級生が6年生に感謝し、卒業式を前に思い出のひとときを過ごす「6年生を送る会」が開かれました。

5年生を中心に下級生がみんなで心をつなげて準備し、6年生10人への思いを一生懸命に伝える、人数が少ない小規模校ならではの送る会でした。



1年生から6年生まで全員が輪になって、歌を歌ったり、ゲームを楽しんだりしての交流です。



↑ 下級生からのメッセージを聞く6年生

下級生が、学年ごとに思い出の映像を流し、「呼びかけ」のかたちで、6年生へのメッセージを発表しました。発表する下級生の目にも涙、聞いている6年生の目にも涙。見ていて目頭が熱くなる場面でした。



記念樹として植える果樹苗を下級生からプレゼント

「真名子っ子班」(縦割り班)や登校班、委員会活動でリーダーとして頑張った6年生、ピア・サポートの活動でやさしく下級生を導いてくれた6年生。下級生はそんな6年生に対して、思い思いの言葉で感謝の気持ちを伝えました。

その中には「6年生のおかげで真名子小がチームになりました」という言葉がありました。「学校をチームに」というスローガンを掲げて取り組んできた1年間でしたが、その実現には6年生の力が大きかったことを改めて感じました。学校のため、下級生のために頑張ってくれた6年生、卒業式に向けてカウントダウンです。中学生になっても元気で活躍してくれることを祈っています。

タイムカプセル 2月29日(月)

卒業を前に、6年生が小学生時代の思い出の品々をカプセルにつめて、校庭に埋めました。掘り出すのは、6年生が二十歳になる8年後です。成人式の後に再会して、担任の牧島先生とともに掘り出すことを約束しました。



ニュートンのこと

～不思議と思う心を大切に～

りんごを見て思い浮かべるのはニュートンのことです。

りんごが木から落ちるのを見て、はっとひらめき、「りんごはなぜ下に落ちたんだ？」と不思議がり、研究して地球の重力の発見に至ったという話で、深く感銘を受けたことを覚えています。

遠い昔の子ども時代の思い出で、その後、これが曲解であったということを知り、大きなショックを受けたこともまた鮮明に覚えています。「地球の重力の発見」ではなく「りんごにはたらいている力が宇宙の天体にもはたらくのではないか」ということをひらめいた」ということらしいのですが、「りんごが下に落ちたことを不思議がった」ということが事実でないとは分かってからも、このエピソードから得た「当たり前だと思っていたことに疑問を持ち、不思議がるのが大発見につながるのだ」という教訓や、「不思議だと思えるところに才能があるのだ」という思いは、今も変わらずに持ち続けています。

学問をする上で大切なのは、不思議だと思って真理を追求する心だと考えています。真名子っ子には、この知的探究心を大きく育ててほしいと願い、全校集会でニュートンの話をしました。



長縄跳び集会

2月25日(木)

児童51人が5つのグループに分かれ、3分間で長縄跳びを何回できるかを競う「長縄跳び集会」が開かれました。グループは、1年生から6年生まで男女混合です。

縄がかなりの速さで回っているため、タイミングをまちがえずに素早く入ってジャンプしないとつかえてしまいます。各グループ10人ほどの、学年が違う子どもたちが次から次へと回っている縄に向かって跳び込んでいきました。

この競争で、一番多く跳べたグループは200回以上、また全てのグループで100回以上跳ぶことができました。どのグループも子どもたちの心が一つにまとまり、チームとなってプレーすることができました。

箏・尺八教室

2月23日(火)

箏の奏者である石林哲子先生、尺八の奏者である増淵貢風先生、お二人の先生においでいただき、5・6年生が箏と尺八の演奏体験をしました。



↑ 箏の演奏体験



↑ 尺八の演奏体験



↑ お二人の先生によるコンサート

ボランティア感謝の会

真名子小の子どもたちは、日頃たくさんの学校支援ボランティアの方々にお世話になってます。2月17日、そうした方々に感謝する会が開かれました。子どもたちは、お礼の手紙と鉢花をお渡ししました。



関塚麻美先生結婚

3年生担任の関塚麻美教諭が結婚し、姓が上野代と変わりました。「上野代麻美先生」として、これからもよろしくをお願いします。

← 3年生の子どもたちからも祝福を受けました。

